

2025年度 事業報告書

群馬大学基金

Gunma University Fund

あなたの寄附が
群馬大学の未来を創る



群馬大学

群馬大学基金へのご支援に対する御礼



国立大学法人 群馬大学長

石崎 泰樹

群馬大学は、2016年に「群馬大学基金」を創設し、本学の教育・研究・社会貢献活動を支えるため、広く皆さまからのご寄附をお願いしてまいりました。

群馬大学に対し、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、令和7年度（2025年度）の事業報告書がまとまりましたので、ここに御礼を兼ねてご報告申し上げます。

社会が大きく変化し続ける中であって、大学には次代を担う人材の育成と、地域・社会への一層の貢献が求められています。本学においても、学生一人ひとりが経済的な不安を抱えることなく学びに専念し、国内外で視野を広げ、将来へと羽ばたいていける環境を整えることが、これまで以上に重要となっています。

群馬大学基金は、皆さまからのご厚志を未来へつなぐ大切な架け橋です。これからも学生支援をはじめとした本学の取り組みを継続・発展させていくため、ぜひ末永くご支援を賜りますようお願い申し上げます。

寄附者の皆様から託された想いの重さを真摯に受け止め、一つひとつの事業に大切に活用させていただきます。

群馬大学基金の活動がこうして実を結び、歩みを進めることができますのも、偏に皆様の温かいご厚情の賜物と、心より深く感謝申し上げます。

今後も、本学のビジョンである「地域に根ざし、知的な創造を通じて、世界の最先端へ挑戦する大学」の実現に向けて、努力して参る所存です。引き続き群馬大学基金にご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

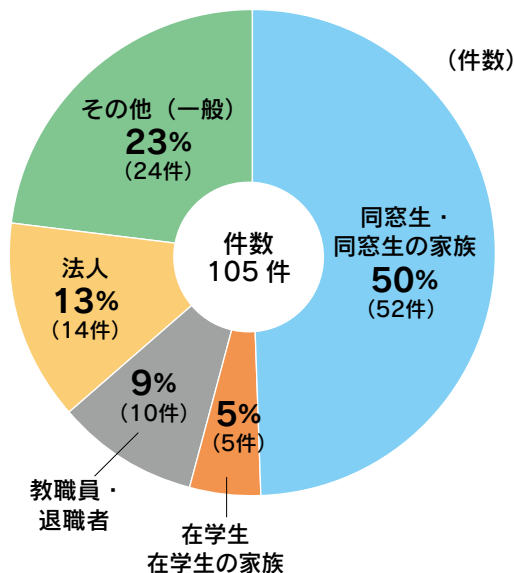
群馬大学基金は学生の学びや研究、地域に寄り添う活動を支えるための基金です。



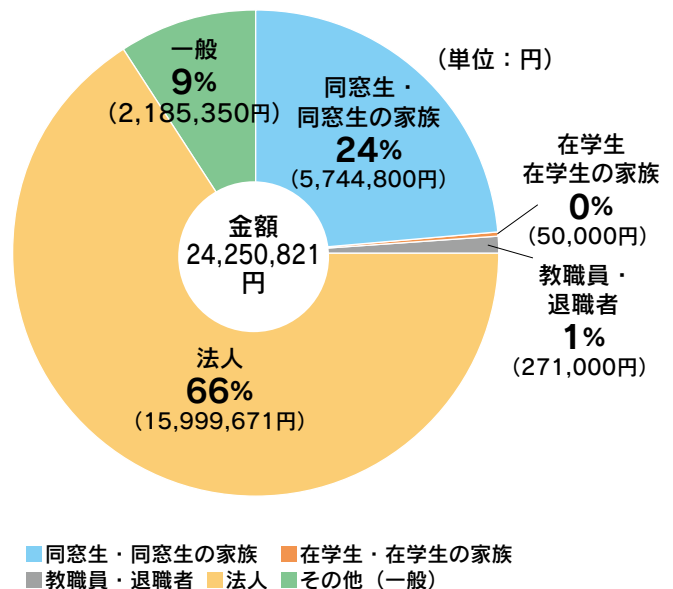


2025 年度寄附実績

寄附者区分別の寄附件数内訳



寄附者区分別の寄附金額内訳



※2025 年 4 月 1 日～ 2026 年 3 月 31 日の寄附者



支援事業一覧

(1) 学生の修学支援に資する事業

支援事業名称	主な使途
経済的困窮学生に対する修学支援金給付事業	経済的困窮度が極めて高く、意欲と能力のある大学院生に対する修学支援金
留学経費補助事業	留学にあたり、海外留学支援制度による奨学金等だけでは十分でない、経済的に困難な学生に対しての奨学金

(2) 大学運営全般に係る事業

支援事業名称	主な使途
グローバルチャレンジプログラム	学生が自ら企画し、自ら実現する海外での活動に対する奨学金
基金事業事務経費	基金ホームページリニューアル費用、基金システム運用費など

(3) 重粒子線治療の普及・発展に資する事業

支援事業名称	主な使途
重粒子線治療の普及・発展	機器の更新費、治療環境の整備費など

(4) 学生等への研究等支援に資する事業

支援事業名称	主な使途
次世代グンマ創発的博士人財インダクションプログラム 選抜学生への研究支援	学生の海外学会等への渡航費用の一部や、研究遂行に必要な試薬の購入など

群馬大学基金の2025年度の活動を事業ごとにご報告します。

(1) 学生の修学支援に資する事業

① 経済的困窮学生に対する修学支援給付事業

▼奨学金として20万円を大学院生12人に給付(総額240万円)

経済的困窮度が極めて高く、意欲と能力のある大学院生12人に、返済を要しない奨学金として、一人20万円を給付いたしました。

ご寄附をいただいた皆様に感謝し、社会に貢献できる学生を育ててまいります。

▼修学支援金給付を受けた学生の声

理工学府 1年生

この度は、群馬大学基金による修学支援金を給付いただき、心より感謝申し上げます。寄附者の皆様のご厚意によってこのような支援を受けられることは、私にとって大きな励みとなりました。経済的な負担が軽減されることで、生活費や学費の心配を少しでも和らげ、より一層学業に専念できる環境を整えることができます。

私は現在、専門分野の研究に取り組んでおり、学びを深めるために必要な教材や実験に係る費用、あるいは学会発表の準備など、多方面で費用がかかる場面があります。今回いただいた支援金は、そのような学修活動の充実に役立てていきたいと考えております。特に、研究を通じて得られた知識や経験を将来社会に還元できるよう努力し、支援してくださった方々の思いに応えていきたいと思います。また、大学基金を通じて、多くの方が学生の成長を後押ししてくださっていることを改めて実感しました。直接お会いすることはできなくとも、寄附者の皆様の温かい思いが私たち学生の背中を押してくださっているのだと思います。この気持ちを忘れず、勉学のみならず人間的にも成長し、将来的には後輩や社会に還元できる立場を目指してまいります。

今回のご支援に深く感謝するとともに、そのお気持ちに応えるため、日々努力を重ねていきます。本当にありがとうございました。

理工学府 1年生

この度は、修学支援金という多大なるご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

私は、自身の視野を広げ、より多くの知識や経験を得たいという強い思いから、5年前に親元を離れ、群馬で一人暮らしを始めました。しかし、定年退職した父の今後の生活や、近年続く経済不況の影響を考えると、学業と生活を両立していくことに対して大きな不安を感じておりました。特に大学院へ進学してからは、研究や学習に多くの時間と集中力を割く必要があるため、十分なアルバイトの時間を確保することが難しい状況でした。そのような中で、今回の修学支援金は、経済的な不安を和らげるだけでなく、親への負担を少しでも軽減できる大きな支えとなることと思います。

このご支援への感謝の気持ちを忘れず、今後はより一層研究活動や、日々の学習に真摯に取り組み、成長していきたいと考えております。

理工学府 1年生

この度は、群馬大学基金による修学支援金をご給付いただき、誠にありがとうございます。ご寄附くださった皆様、ならびに本事業に携わる関係者の皆様に心より感謝申し上げます。本支援金は、研究に専念するための大きな支えとなります。教材費や研究活動に必要な費用など、学生生活における経済的な不安を軽減していただいたことで、より研究に集中することができます。また、寄附者の皆様からのメッセージを拝見し、多くの方々に支えられて学生生活を送れていることを実感しました。その温かいお気持ちに大きな励ましをいただいております。いただいたご支援と期待を胸に、日々の学修に真摯に向き合い、将来社会や地域に貢献できるよう努力してまいります。

この度は本当にありがとうございました。

②留学経費補助事業

グローバル社会において活躍できる人材を育成する目的で、国際交流や留学意欲のある学生に対し、海外派遣のための奨学金を支給しました。

ベトナムFPT大学国際インターンシップ研修

▼渡航先：ベトナム（2025年9月3日～9月19日）

情報学部情報学科 2年／鴨川 結優

この度は、群馬大学基金によるご支援を賜り、誠にありがとうございました。本奨学金のおかげで、以前から挑戦したいと考えていた海外での学びに踏み出すことができました。

私はベトナムのFPT大学にて、日本語教育のインターンシップに参加しました。授業観察や学生との交流に加え、模擬授業を担当し、「色」や「あいさつ」などの基礎表現を教えました。イラストやクイズを取り入れ、生徒が楽しく学べるよう工夫した結果、積極的に参加する姿が見られ、大きなやりがいを感じました。さらに、現地の学生と関わる中で、日本語だけでなく文化への関心を持ってもらえたことも印象に残っています。

また、文化や価値観の違いに触れる中で視野が広がり、言語や生活面での困難も経験しましたが、工夫して乗り越えることで自信につながりました。

本奨学金により貴重な経験を得られたことに深く感謝申し上げます。今後はこの学びを大学生活や将来に活かすとともに、国際的な視野を持って主体的に行動していきたいと考えております。



プログラム参加者と
鴨川（右から2番目）

▼渡航先：ベトナム（2025年9月3日～9月19日）

情報学部情報学科 2年／二又 凌宇

この度は、留学経費をご支援いただき、誠にありがとうございました。本研修を通して、現地企業での実務経験を積むとともに、異国という環境下で、価値観や視野を大きく広げることができました。

研修では、まずベトナムの文化や価値観に触れる授業をFPT大学で受講し、さらに現地での生活を通して、日本との違いを強く実感しました。新しいことばかりの環境は非常に刺激的で、多くの学びを得る毎日でした。研修の中心となったのは、現地のIT企業での活動です。特に印象に残っているのは、AI事業のランディングページ制作に携わったことです。デザインや情報整理を通じて、相手に分かりやすく伝える力の重要性を学びました。また、ベトナム人のメンバーと協働する中で、自ら意見を発信する主体性の重要性を強く認識することが出来ました。これまでの自分の考え方を見直し、より柔軟に行動できるようになった、大きなきっかけになったと感じています。

このような貴重な経験を得ることができたのは、皆様からのご支援があったからこそです。このご恩を忘れず、今回の学びを今後の学業や将来に活かし、社会に貢献していきたいと思います。心より、感謝申し上げます。



プログラム参加者と
二又（左から1番目）

ポーランド平和学習プログラム

▼渡航先：ポーランド（2026年3月13日～3月22日）

情報学部情報学科 1年／伊藤 風紗

この度は、研修費用を補助していただき、誠にありがとうございました。ポーランドでは、ワルシャワ大学、ヤギェウォ大学で現地の学生と交流したり、アウシュビッツ・ビルケナウ博物館などの見学を行ったりしました。

ワルシャワ大学の学生とは文化交流や平和についてのディスカッションをしました。ほとんどが英語での会話で、うまく伝わらないこともありましたが、お互いが耳を傾け、懸命に伝えようと努力することで楽しく時間を過ごすことができました。このことから、文化や言語が違っていても、違いがあることを認めて理解する努力をすることが平和につながるのではないかと考えるようになりました。

アウシュビッツ・ビルケナウ博物館では、日本人ガイドの方に案内していただきながら見学しました。まさかと思うことが現実にあったのだと実感させられました。カースト制、医療、心理学などが収容所では使われましたが、それら自体が悪いと否定するのではなく、それをどう使ったかに焦点を当てるべきだというガイドの方の話が特に印象に残っています。

今も世界では戦争、紛争が起きていますが、その背景にあるのはそもそも何なのか、どうしたら解決できるのかを考え続けていきたいです。



プログラム参加者一同ワルシャワ旧市街地にて
伊藤（手前右から2番目）

(2) 大学運営全般に係る事業

① グローバルチャレンジプログラム

学生が自ら企画し、自ら実現する海外での活動に、最大50万円を支給するプログラムです。審査で選ばれた学生に奨学金を支給しました。

世界一厳しい動物愛護法を課す スイスから学び考える、動物福祉のあり方

▼ 渡航先：スイス（2026年3月1日～3月10日）

医学部学科 6年／森 なつ実

この度は留学のご支援を賜り心より感謝申し上げます。

私は動物福祉の先進国であるヨーロッパの国々の取り組みに関心があり、世界一動物愛護法が厳しいといわれるスイスに行ってまいりました。具体的には、主に南スイス最大の動物保護施設SPABでボランティアとして清掃、給餌、負傷した動物の手当、獣医師の診察への同行、レスキュー活動への同行などを行いました。

そこでは動物たちが自然にあふれた場所でのびのびと暮らし、ボランティアの方々から深い愛情を受けている姿がありました。一方で、飼い主に捨てられてしまった動物、大きいというだけでなかなか新しい家族が見つからない動物、戦争から逃れ飼い主と離れ離れになった犬など多くの悲しい現実がスイスにもあることがわかりました。その中でも殺処分を行うことは決してなく、ボランティアメンバーが中心となって奮闘している様子を目の当たりにしました。

今後自分がどう動物福祉に貢献できるかより深く考えるきっかけとなっただけでなく、一生ものの出会いが多くあった今回の留学は、私にとってかけがえのない財産です。

皆様には心から感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



犬舎の清掃の様子



お世話になったボランティアメンバーと
森（左から3番目）

医療大国キューバで、 真の持続可能な地域医療を追究する

▼渡航先：キューバ（2026年2月9日～3月20日）

医学部医学科 5年／藤木 里紗

私はキューバのハバナ医科大学にて、大学病院の神経内科病棟および救急外来、診療所等で実習を行いました。キューバはかつて医療大国として知られ、米国からの経済制裁下でも独自の家庭医療システムを築いてきました。

しかし渡航時には、ベネズエラ情勢の影響による深刻な石油不足に直面し、全国規模の停電が度々発生、連日10時間前後の停電や断水が続いていました。医療現場では、電気を用いる検査は全面停止。術後管理ができず合併症に苦しむ方、物資が届かず重度の貧血でも輸血を受けられない方など、極めて過酷な現実を目にしました。

このように医療を支える手段が一つひとつ失われていく中でも、家庭医が長年にわたり全住民の生活背景や健康状態を把握してきた基盤だけは揺らぐことなく残されていました。極限の状況で医療をつなぎとめる本質はどこにあるのか、厳しい時期に現地で生活を共にしたからこそ得られた学びがありました。この経験を日本の医療にどう生かすか、帰国後も考えを巡らせ続けています。

何にも代えがたい貴重な経験を得ることができたのは、群馬大学基金の寄附者の皆様のご支援のおかげです。温かく見守ってくださった全ての皆様に心より御礼申し上げます。



神経内科の先生方と
藤木（左から2番目）



停電時の様子

Building Resilience and Wellbeing in Youth

▼渡航先：①オーストラリア／②デンマーク、スウェーデン、オランダ

(①2025年11月2日～11月17日／②2025年4月27日～5月10日)

医学部医学科 5年／馬 映竹・小林 ななみ (渡航時5年)

グローバルチャレンジプログラムを通して、若者のウェルビーイングを包括的に支えるモデルの理念と実践を学び、日本の支援体制に活かすことを目的として、留学を実施いたしました。本留学では2名で役割を分担し、メンタルヘルスの観点からオーストラリアの研究機関や支援窓口を訪問し、セクシュアルヘルスの観点からヨーロッパのユースクリニックや包括的性教育の取り組みを視察いたしました。現地では、具体的な支援内容や社会実装の方法、現場の課題について直接伺い、先進地域における若者支援の実践を多角的に学ぶことができました。

また、本プログラムを通じて、課題設定から調査・計画・実行に至る一連のプロセスを主体的に経験できたことは、今後の学修や臨床・研究活動において大きな財産になると考えております。さらに、公衆衛生や教育を含む多分野の視点から健康課題を捉える力が養われ、国内外の専門職とのネットワークも将来の基盤となるものと実感しております。

このような貴重な機会を賜り、ご支援くださった群馬大学基金の寄附者の皆様に、心より御礼申し上げます。



オーストラリアの若者メンタルヘルス研究機関 Orygen
にて、業務後の交流の様子
馬 (左から1番目)



デンマークのユースクリニック UNGMOD にて、代表・
助産師のガブリエラさんと
小林 (2列目右から1番目)

(3) 重粒子線治療の普及・発展に資する事業

皆様のご支援に支えられた重粒子線治療

群馬大学重粒子線医学研究センター センター長 大野 達也
副センター長 田代 睦

群馬大学における重粒子線治療は、2010年3月に先進医療として導入されて以来、患者さんに最良の医療を届けることを使命として歩みを進めてきました。治療開始から今日まで、多くの患者さんに治療の機会を提供し続けており、その実績は年々積み重なっています。

重粒子線治療は、厚生労働省による先進医療技術の評価を経て、国内での保険適用範囲が段階的に拡大してきました。2016年の骨軟部腫瘍を皮切りに、2018年には前立腺がん・頭頸部がん、2022年には肝細胞がん、肝内胆管がん、局所進行膵がん、手術後の大腸がん再発、子宮頸部腺がんが対象となり、2024年には早期肺癌、局所進行子宮頸部扁平上皮癌、悪性黒色腫へと広がり、治療の選択肢としての存在感が一層高まっています。

こうした適用疾患の拡大に伴い、本学で治療を受ける患者さんの数も増加を続けています。これまでに延べ8,800名が治療を受け、年間の治療患者数は870名に達しました。そのうち約9割が保険診療による治療であり、重粒子線治療がより身近で利用しやすい医療となってきたことがうかがえます。今後も保険適用の広がりにより、治療を必要とする患者さんはさらに増えることが見込まれます。

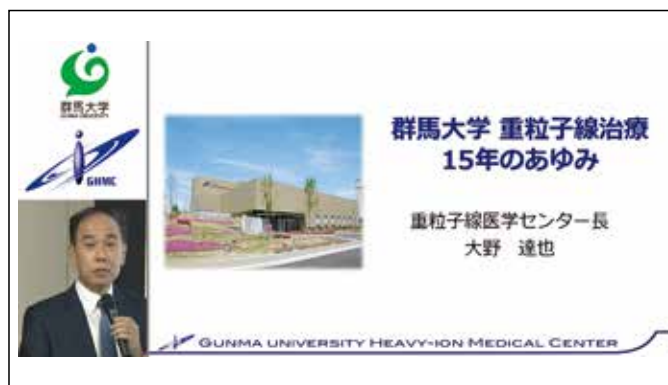
10月には、重粒子線治療開始15周年を記念した講演会を開催しました。来賓として、山本一太群馬県知事および国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構QST病院長の石川仁氏が出席し、祝辞を述べられました。講演会では、これまでの成果や群馬大学の取り組み、今後の展望について多角的に紹介し、多くの参加者から好評をいただきました。講演会の様子は、本学公式YouTubeチャンネルでもご覧いただけます。

治療開始から16年が経過し、装置の大規模更新が必要となる時期を迎えています。安定した治療提供を継続し、より多くの患者さんに最善の医療を届けるためには、治療環境の整備、新技術の研究開発、そして医療人材の育成が欠かせません。

今後も本学が重粒子線治療の発展を牽引し続けるために、皆様の温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



図：重粒子線治療患者数の年度別推移



写真：重粒子線治療開始15周年記念講演会で講演する大野重粒子線医学センター長

(4) 学生等への研究等支援に資する事業

優秀な博士後期課程学生38人に研究費を支援 (総額340万円)

本学は、文部科学省及び国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の「次世代研究者挑戦的研究プログラム～博士後期課程学生支援～」に採択され、「次世代グンマ創発的博士人財インダクションプログラム（Next-GIP）」を実施しています。

本プログラムでは、選抜された優秀な博士課程学生に対し、経済的支援（研究費等）を行うとともに、海外実習、企業でのインターンシップ、企業の研究・開発者のセミナー等の教育コンテンツを提供しています。各学生が所属する研究科（医学系研究科、保健学研究科、理工学府など）で専門的な研究力を磨くだけでなく、本プログラムを通じて、コミュニケーション力や社会で役立つ幅広い知識（汎用スキル）を習得し、**大学や研究機関における研究職のみならず、産業界など多様な分野でイノベーションをけん引できる博士人材の育成**を目指しています。

令和7年度は、同プログラムの選抜学生38名に対し、皆様から頂いた貴重なご寄附をもとに、**総額340万円の研究費を支援**いたしました。昨今の物価高騰による研究環境への影響を抑え、学生の海外学会等への渡航費用の一部や、研究遂行に必要な試薬の購入などに活用させていただき、学生の研究活動を一層前進させる大きな原動力となりました。厚く御礼申し上げます。

令和7年度の特筆すべき成果として、プログラム選抜学生1名が、**独立行政法人日本学術振興会「第16回（令和7年度）育志賞」を受賞**いたしました。同賞は、将来、我が国の学術研究を発展させる優秀な大学院博士課程学生を顕彰するきわめて権威のある学術賞です。今回の受賞は、**本学初であり、群馬県内の国公立大学を含めても初めての快挙**となりました。

本プログラムでは、今後とも高い専門性と広い視野を兼ね備え、社会課題を解決できる博士人材の育成に尽力してまいります。引き続き、本学の教育・研究活動にご理解をいただき、温かいご支援をいただきますようお願い申し上げます。

本学初！
育志賞受賞

写真：育志賞を受賞した理工学府博士後期課程3年 松原希宝さん(左)と指導教員の覚知准教授(右)（学年は令和7年当時のもの）



群馬大学基金の種類



学生の修学への支援

本学は、経済的理由に左右されず、学生が学びに集中できる環境づくりを進めています。
皆さまのご寄附が、学生の未来と可能性を支える力となります。



大学運営全般への支援

本学の教育・研究・社会貢献活動を幅広く支えるご寄附です。
皆さまのご寄附が、未来を切り拓く大学の力となります。



学生等への研究等支援

本学は、学生が研究に挑戦し成果を社会に発信できる環境を整えています。
皆さまのご寄附が、次世代研究者の成長を支えます。



重粒子線治療への支援

本学の重粒子線治療は、体を切らずにがん治療の可能性を広げています。
皆さまのご寄附が、治療の質向上と患者さんの希望につながります。



附属病院への支援

本事業は、患者さんが安心して医療を受けられる病院環境を整える取り組みです。
皆さまのご寄附が、地域医療の質向上を支えます。



創基150周年記念事業

本学は、本事業を、未来につながる継続的な取り組みとして推進しています。
皆さまのご寄附が、大学の挑戦を支えます。

これまでに実施した事業は、群馬大学基金のwebサイトにて御報告しております。

寄附の申込方法

寄附のお申込み方法

インターネットの場合

スマートフォン、パソコン上で手軽に申込みが完結するWebからの申込みをぜひご利用ください。



STEP 1 アクセス

Webからの申込みを選択



STEP 2 申込者情報の入力

申込者情報を入力



STEP 3 決済情報の入力

決済情報を入力。群馬大学基金への入金確認後、領収証を後日お送りいたします。

●支払い方法



キャッシュレス決済

クレジットカード、PayPayでの決済が可能です



コンビニ決済

(セブンイレブン、ローソン、ファミリーマート、ミニストップ、セイコーマートでお支払いいただけます。) ※1



銀行振込決済

払込票を送付させていただきます
(窓口・インターネットバンキング・ATM) ※2

※1 コンビニ決済では30万円以上のご寄附は払込できません。クレジットカード決済、銀行振込決済をお選びください。 ※2 銀行振込決済は振込手数料の負担がございます。

※令和8年4月よりPayPayによるご寄附も可能になりました。



冠事業基金へのご寄附

冠事業基金は、学生支援や教育研究環境の整備など、特定の目的のためにご寄附いただいた資金をもとに設置する基金であり、寄附者のお名前や企業・団体名を基金名称に冠する制度です。なお、『冠事業基金』の名称及び内容は寄附者と協議の上、決定いたします。冠事業基金の創設をご検討の際は、群馬大学基金お問合せ先までご連絡願います。



リサイクル募金によるご寄附

読み終えた本や不要になった CD・DVD 等を有効活用し、群馬大学の教育・研究活動や学生支援につなげるプロジェクトです。

お申し込みはこちら



遺贈・相続によるご寄附

群馬大学基金では、遺贈・相続によるご寄附を受け付けております。遺贈とは、遺言書によって特定の個人や団体等にご自身の財産を遺すことをいいます。

「財産を活用して社会に恩返しをしたい」

「未来を担う次世代のために役立てたい」

皆様の大切な想いを、群馬大学の教育・研究活動を通じて未来へとつなぎます。遺言書を作成することで、ご自身の意思や想いを反映した財産の活用をすることができます。また、群馬大学に財産を遺贈していただいた場合、当該財産は相続税の非課税対象となるため、相続税の負担軽減につながります。

本学と協定を結んでいる銀行 東和銀行 / 群馬銀行 / 三井住友銀行



謝意表明

●感謝状について

50万円以上のご寄附をいただいた方に贈呈させていただきます。

●銘板について

ご寄附をいただき累計金額に応じて、お名前を銘板に記し、群馬大学内に掲示させていただきます。

寄附金額	銘板の色
5,000 万円以上	プラチナ
1,000 万円以上	ゴールド
500 万円以上	シルバー
50 万円以上	ブロンズ



●ホームページへの掲載

ご了承いただいた方のご芳名を群馬大学基金ホームページ上に掲載いたします。

特 典

●オリジナルグッズの贈呈

ご寄附をいただいた金額に応じて、群馬大学オリジナルグッズを贈呈させていただきます。



クリアファイル



テーブルセンター



カレンダー



ネクタイ



ハンカチーフ

※オリジナルグッズは変更となる場合があります。

紺綬褒章について

紺綬褒章とは、公益のために私財を寄附した方に授与されるもので、授与基準に従い、500万円以上のご寄附をいただいた個人及び、1,000万円以上のご寄附をいただいた団体を推薦(文部科学省に申請)させていただきます。



税制上の優遇措置について

本学への寄附は寄附金控除の対象となり、確定申告で税制上の優遇措置が受けられます。

個人寄附の方

1. 所得税の控除

寄附金控除には、「税額控除」と「所得控除」があり、「税額控除」は「学生の修学支援に資する事業」または「学生等への研究等支援に資する事業」に御寄附いただいた方に限り、お選びいただけます。

- ①税額控除 寄附金額から2,000円を差し引いた額の40%が所得税額から控除されます。税額控除は、税率に関係なく所得税額から直接控除されるため、多くの方にとって、所得控除と比較して減税効果が大きくなります。

$$\left[\begin{array}{|c|} \hline \text{所得金額} \\ \hline \text{(年収)} \\ \hline \end{array} - \begin{array}{|c|} \hline \text{諸控除} \\ \hline \text{(扶養控除等)} \\ \hline \end{array} \right] \times \begin{array}{|c|} \hline \text{税率} \\ \hline \text{(所得に応じた税率)} \\ \hline \end{array} - \left[\begin{array}{|c|} \hline \text{【控除対象額】}^{※2} \\ \hline \text{寄附金額}^{※1} - 2,000円 \\ \hline \end{array} \right] \times 40\%$$

※1 寄附金額はその年の総所得金額等の40%が上限となります。

※2 所得税控除額はその年の所得税額の25%が上限となります。

- ②所得控除 寄附金額(寄附された年の総所得金額の40%を上限)から2,000円引いた額が、当該年の所得金額から控除されます。

$$\left[\begin{array}{|c|} \hline \text{所得金額} \\ \hline \text{(年収)} \\ \hline \end{array} - \begin{array}{|c|} \hline \text{諸控除 (扶養控除等)} \\ \hline \text{寄附金額}^{※3} - 2,000円 \\ \hline \end{array} \right] \times \begin{array}{|c|} \hline \text{税率} \\ \hline \text{(所得に応じた税率)} \\ \hline \end{array}$$

※3 寄附金額はその年の総所得金額等の40%が上限となります。

2. 住民税の控除

寄附をした翌年1月1日時点で住所地が群馬県内の方は、総所得金額等の30%を上限とする寄附金額について、県民税の税額控除を受けることができます。また、お住いの市区町村が、条例で群馬大学を寄附金控除の対象法人として指定している場合※1、市町村民税の税額控除を受けることができます。

(寄附金額-2,000円)×控除率(県民税：4%、市町村民税：6%)

※1 寄附金控除対象として指定されているかは、お住いの自治体もしくはお近くの税務署にご照会ください。

法人寄附の方

法人税法第37条第3項第2号により、全額損金算入が認められております。



群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

群馬大学基金お問合せ先

国立大学法人群馬大学 総務部総務課 基金係

〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地

TEL 027-220-7018

FAX 027-220-7012

Email kikin@ml.gunma-u.ac.jp

URL <https://kikin.gunma-u.ac.jp/>

